



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **21**

2025/Jul.

令和7年7月14日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園

全国の頂点へ。
生徒たちの挑戦が切り拓いた
“史上初”の快挙——





帝塚山高校 マイナビキャリア甲子園で 優勝・準優勝を獲得!



高校生によるビジネスコンテストで、
史上初の偉業を達成。



3月15日・16日に東京・大手町三井ホールで開催された全国高校生ビジネスコンテスト「第11回マイナビキャリア甲子園」において、本校から出場した3チームが決勝大会へ進出。そのうち2チームが、見事「優勝」「準優勝」という輝かしい成果を収めました。1校から3チームの決勝進出は大会史上初。さらに、2チームが表彰されるという快挙も前例のないものです。本校の教育の根幹にある「自ら学び、表現する力」が、全国の舞台で高く評価されました。



“挑戦する高校生”の祭典、
マイナビキャリア甲子園とは?



マイナビキャリア甲子園(本大会)は株式会社マイナビが主催する日本最大級の高校生ビジネスコンテストです。協賛企業が出題したテーマに対し高校生はチームを組み、好きな企業テーマにエントリー。協賛企業が出題するテーマに対してビジネスプランを提案します。書類審査、プレゼン動画審査、準決勝と戦っていき、企業代表チームが選出されます。協賛企業ごとに企業代表チームを決定し、最後は企業代表チーム同士の戦いとなる決勝戦を開催。決勝大会では、選ばれた10チームが企業代表として激戦を繰り広げました。

T-time

帝塚山学園広報誌

2025/Jul.

令和7年7月14日発行

Vol.21



〈表紙の写真〉

マイナビキャリア甲子園、優勝トロフィーを手に、
晴れやかな笑顔を見せる代表生徒たち。
全国3,000チーム超の頂点に立った達成感が、
弾ける笑顔にあふれています。
詳細については2ページからご覧ください。

Contents

特集 P 02
帝塚山高校 マイナビキャリア甲子園で優勝・準優勝を獲得!

大学 P 05
奈良の食の魅力の世界へ
学生たちが手がけた「万博BENTO」大阪・関西万博で限定販売
TOPICS
・IRがもたらす大阪・関西の未来を学ぶ特別講義を開催
・実学教育の真価を現場で発揮
企業との継続的な関わりから生まれた卒業研究
・女子バレーボール部 関西1部春季リーグ優勝!

中学校・高等学校 P 07
異なる言語、ひとつの音楽 国際交流が音楽で響き合う
シンガポール・台湾・日本の3地域による合同コンサートを開催
TOPICS
・IJ鈴木幸一会長による特別講演会を実施
・近隣地域の小学生が最新技術を体験!
一生徒主導の3Dプリンター講座が大好評ー
・伝統と自然に触れる学びの場 「田んぼプロジェクト」始動

小学校 P 09
ポップコーンから広がる学びの輪
探究×キャリア×大学連携で深まる帝塚山ポップコーンプロジェクト
TOPICS
・歓喜の歌で未来をつなぐ
コーラス部が大阪・関西万博開幕セレモニーに出演
・小さなどんぐりに大きな願いをこめて
苗木のスクールステイ始まる
・ひらめきと感性が光る 美術作品展「掌の美」を開催

幼稚園 P 11
親子で触れる日本文化 一生け花教室で感じる初夏の心
TOPICS
・春の自然に親しみいちご狩り体験
・チャレンジプログラム〈茶道〉
～「日々是好日」の心で、“今”を大切に～
・お米プロジェクト ～田植え体験で育む自然とのふれあい～

教育連携 P 13
つながる ひろがる 教育連携

・同窓会だより P 16
・INFORMATION P 17

UD FONT



CAREER KOSHIEEN FINAL



「Be Adventurers」を全体テーマとした今大会には、
その中で決勝に進めるのは、わずか10チーム。
本校からは高校1・2年生を中心に19チームが参加し、

全国から11,595名・3,136チームがエントリー。
倍率は実に300倍以上という狭き門です。
内3チームが決勝大会への出場権を獲得しました。

代表生徒のコメント ロックロック 國嶋 彩乃さん

キャリア甲子園を通して、ゼロから企画を考える難しさや、相手に伝わるプレゼンを作るための工夫など、学校の勉強だけでは得られない学びがたくさんありました。何度もアイデアを練り直しながら、どうすればより伝わるのかを考える過程はとても大変でしたが、その分、大きな達成感がありました。この経験を通して、自分が「やってみたい」と思ったことには、これからも怖がらずに挑戦し続けたいと強く思いました。

担当教諭からのコメント 西川 和宏教諭

本校は、準決勝に複数のチームを送り出すなど、全国でも有数の実績を誇る強豪校です。

予選を勝ち抜いた生徒たちは、協賛企業の担当者やビジネスの第一線で活躍する方々と同じ視点で新規事業の提案に挑む、貴重な機会を経験します。これは、通常の学校生活では得がたい、まさに「日本の中心」で繰り広げられる知的競争であり、高校生の頂点をかけた戦いです。

この取り組みはテレビや様々なメディアでも紹介されており、毎年、特別な才能を持つ生徒ではなく、「ちょっと面白そう」と感じ、一步を踏み出したごく普通の帝塚山高校の生徒たちが挑戦しています。

今年も8月末から新たな挑戦が始まります。興味を持った方は、ぜひその一步を踏み出し、仲間とともに熱い半年を過ごしてみませんか。



大会結果報告で富岡 将人理事長・学園長へ表敬訪問

4月21日に大会結果の報告として、富岡 将人理事長・学園長への表敬訪問を実施。生徒たちは、結果だけでなく取り組みのプロセスや学びについても報告し、富岡 将人理事長・学園長より温かい激励の言葉を受けました。日々の学びが社会とつながる経験となり、生徒一人ひとりの視野が広がる機会となりました。



3チームが決勝進出、2チームが表彰台へ— 決勝大会に進出したのは以下の3チームです。

Discovery部門《優勝》

チーム名: ロックロック

出場生徒: 國嶋 彩乃さん(当時高2)

堀江 愛さん(当時高2)

木下 来美さん(当時高2)

西田 夏也さん(当時高2)

協賛企業: 日本生命保険相互会社



「ロックロック」は、高齢者保険の加入促進という社会的課題に着目し、実効性の高いプロジェクト提案で高評価を獲得。堂々の優勝に輝きました。



Discovery部門《準優勝》

チーム名: もこもこバイタース

出場生徒: 大西 未莉さん(当時高1)

古田 菜々星さん(当時高1)

篠田 花菜さん(当時高1)

杉井 蘭さん(当時高1)

協賛企業: アート引越センター株式会社

「もこもこバイタース」も、引っ越しサービスの新たな付加価値を打ち出した発想力と構成力が評価され、準優勝を受賞しました。

Innovation部門出場

チーム名: セプトプレス(仮)

出場生徒: 富永 峻平さん(当時高2)

成瀬 智裕さん(当時高2)

原 悠真さん(当時高2)

中村 裕豪さん(当時高2)

協賛企業: 株式会社 不二ビューティ
(たかの友梨ビューティクリニック)



惜しくも受賞を逃した「セプトプレス(仮)」は、オンライン視聴者の投票で50%以上の支持を獲得し、最も注目を集めたチームとなりました。



IRがもたらす大阪・関西の未来を学ぶ 特別講義を開催

経済経営学部で展開している「国際観光ビジネスプログラム」の一環として、特別講義「IRがもたらす大阪・関西の未来」を開催しました。講師には、大阪府・大阪市IR推進会議座長であり、公益財団法人大阪観光局理事長の溝畑宏（ミヤクひろし）氏を迎えました。登壇時には、大阪・関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」の被り物をかぶって登場し、学生たちの緊張もほぐれ、会場は笑顔と拍手に包まれました。

講義では、2025年4月に着工し、2030年秋頃開業予定の夢洲に立地するIR（統合型リゾート）について、経済波及効果や観光振興など地域社会への影響を中心に、行政現場での経験を交えながら具体的に解説。さらに、大阪・関西万博の意義にも触れ、IRが単なる観光施設にとどまらず、国際交流・文化発信・イノベーションの創出の場として果たすべき役割の重要性が語られました。



質疑応答では、「ギャンブル依存症対策はどう講じられているのか」「IRの効果は教育にどれほど還元されるのか」など、学生からの踏み込んだ質問が相次ぎ、活発な議論が展開されました。

締めくくりに溝畑氏は、「大阪はIR開業を見据えてすでに多くのチャレンジを始めている。IRは将来の就職先の一つにもなる。スポーツや食文化、インターネットなど、自分の“好き”や“関心”がIRにもつながっている。視野を広く持ち、自分なりの関わり方を見つけてほしい」と学生たちにエールを送りました。

IRを通じて、関西の未来と観光・ビジネスについて考える実りある時間となりました。



実学教育の真価を現場で発揮 企業との継続的な関わりから生まれた卒業研究

経済経営学部田中ゼミの卒業生・福永泰士さん（当時4年）が、自身の卒業研究の成果を株式会社をくだ屋技研にて発表しました。この報告会は、福永さんの「研究成果を企業に還元したい」という想いと、同社・奥田智代表取締役社長の「社員にも内容を共有してほしい」とのご要望が重なり、実現したものです。

福永さんは、2022年に本学の「アドバンスプログラム」で同社を訪問したことをきっかけに、非効率性を重視したユニークな経営姿勢や社長の理念に感銘を受けました。その後も関係を継続し、インタビューやアンケートを通じて中小企業における従業員エンゲージメントを調査しました。



その成果が、今回発表された卒業研究「中小企業の従業員エンゲージメント大全 ―をくだ屋技研を通してみるエンゲージメント施策の本質―」です。先行研究と照らし合わせながら、定性・定量の両面から行った分析に、社員の皆さんは熱心に耳を傾けてくださいました。

企業訪問は一過性で終わりがちですが、訪問後も主体的に関係を深め、研究へと発展させた姿勢は、実践的な学びの好例といえるでしょう。企業と学生との継続的な関わりが、学びの深化と社会への理解を促す好例となりました。今回の取り組みは、まさに本学が掲げる「実学教育」の意義を体現するものとなりました。



女子バレーボール部 関西1部春季リーグ優勝！

2025年度「RIGAVIL CUP2025 関西大学バレーボール連盟女子1部春季リーグ戦」において、本学女子バレーボール部が見事、優勝を果たしました。

リーグ終盤、帝塚山大学・京都橘大学・関西大学の3校が8勝2敗で並ぶ激戦となりましたが、本学は最終戦で神戸親和大学にストレート勝ち。その後、関西大学が敗れたことで、同率の京都橘大学をセット率で上回り、2021年度秋季以来となるリーグ優勝が決定しました。

新年度より着任した藤田幸光監督と森脇文子コーチの新体制となり、チームスローガン「気勢愛楽」の下、練習に励んでいた部員たち。仲間と支え

合いながら、信頼関係を深め、ひたむきに努力を重ねてきた成果が実を結びました。

また、チームとしての成果に加え、個人としても以下の通り表彰を受けました。

- ・最優秀監督賞：藤田幸光監督
- ・最優秀選手賞：三反畑奈々星さん（経済経営学部4年）
- ・ベストスコアラー賞：堀由佳さん（心理学部4年）

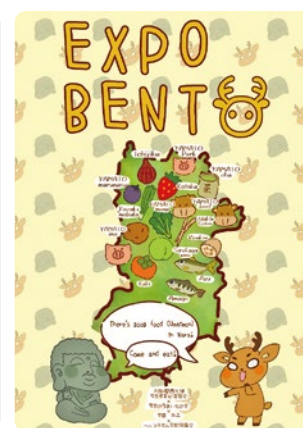


奈良の食の魅力を世界へ

学生たちが手がけた「万博BENTO」 大阪・関西万博で限定販売

大学現代生活学部食物栄養学科の学生たちが、奈良県からの依頼を受け、大阪・関西万博にて特製弁当「万博BENTO」の開発・販売に挑戦しました。活動の中心となったのは、奈良県内の4大学（帝塚山大学、奈良女子大学、畿央大学、近畿大学の管理栄養士養成課程の学生）で構成される食育ボランティアサークル「ヘルスチーム奈良」。食を通じて地域に貢献するという思いの下、栄養学の知識と創意工夫を凝らした一品が完成しました。

「万博BENTO」は、奈良の伝統食材を生かしたメニュー構成で、主食には「ほうじ茶香るおにぎり」や「豚肉とカブの柿の葉寿司」、主菜には「鶏肉と大和丸なすの生姜焼き」や「カレーコンパニオン」など、奈良らしさを感じられる品々が彩ります。副菜やデザートにも奈良の食文化をふんだんに取り入れ、見た目にも楽しく、食べて美味しい、栄養バランスにも優れた弁当に仕上げました。調理にあたっては、奈良市内の日本料理店「奈良井上」からのアドバイスや、2024年10月のプレ販売、また日本テレビ「NPO」内の特集「旅するエプロン」での提案を受け、度重なる改良を経て現在の形に。まさに産官学連携による成果といえます。



異なる言語、ひとつの音楽
国際交流が音楽で響き合うシンガポール・台湾・日本の3地域による
合同コンサートを開催

学園講堂にて、シンガポールのAnglo-Chinese Junior College(ACJC)、台湾のNew Taipei Municipal Yonghe Junior High School(永和中学校)そして本校による国際合同コンサートが開催されました。音楽という共通言語を通じて、国境や言葉の壁を越えて心がつながる貴重なひとときとなりました。本校からは、弦楽部・吹奏楽部・コーラス部の生徒たちが出演し、来日した各校の演奏と共に舞台を彩りました。

オープニングは、永和中学校オーケストラによるヘンデルのトランペット協奏曲。華やかな響きが講堂に広がり、会場全体が一瞬で音楽の世界に包まれました。続いて披露された台湾民謡「高山青」や映画音楽の演奏では、各国の文化的背景が音楽を通して美しく表現され、観客を魅了しました。

ACJCのステージでは、弦楽部が軽快なリズムの楽曲を、合唱部が東欧や日本の伝統曲・西洋の合唱曲などを披露。特に「サークル・オブ・ライフ」の合唱では、会場が一体となって温かな雰囲気になりました。さらに、弦楽と合唱によるシンガポールのポップソングである「Home」や「Sacred Heart」の演奏は、参加者の心に深く響く感動的なシーンとなりました。

後半は、本校弦楽部による映画音楽メドレーからスタートし、続く3校合

同ステージでは、オペレッタ「うもり」序曲の迫力ある演奏や、モーツァルトの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」による繊細で調和のとれた合唱が披露されました。ラストは全出演者による「ハレルヤ・コーラス」。壮大なフィナーレで、音楽と友情に彩られたステージが幕を閉じました。

コンサートを終えた本校生徒の一人は、「言葉が通じなくても、リハーサルの中でだんだん心が通じていく感覚がありました。音楽で仲良くなれるって、本当にあるんだなと思いました」と笑顔で語ってくれました。また、永和中学校からの参加生徒は「日本の友達と一緒にステージに立てたことは一生の思い出です。緊張したけれど、演奏の最後には笑顔でアイコンタクトできたのが嬉しかった」と話し、ACJCの生徒からは「演奏も楽しかったですが、他の国の生徒と一緒に音楽を作れたことがとても貴重でした。国や文化が違っても心は通じるんだと感じました」という感想が寄せられました。

コンサート後は、来校した生徒たちを対象に、校内ツアーや授業体験を実施。書道や茶道などの文化体験も交えながら、日本の学校生活に触れてもらいました。言語の違いを超え、会話の中に笑顔やジェスチャーが自然に加わり、短時間ながら確かな友情が育まれていました。

IIJ鈴木幸一会長による
特別講演会を実施5/14
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

高校2年生の女子英数コース約170人を対象に、株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)会長・鈴木幸一氏をお招きし、特別講演会を開催しました。鈴木氏は、日本で初めてインターネットを事業として展開し、日本の情報インフラの礎を築いた先駆者として知られています。

講演では、創業当初の苦労や既存の通信制度との闘い、そしてインターネット黎明期に抱いた思いなどを、自身の経験を交えて語ってくださいました。生徒たちは事前に「私の履歴書」(日本経済新聞)の連載を読み、関連動画も視聴して講演に臨みました。講演後の質疑応答では、代表生徒がインターネットやAIに関する質問だけでなく、自身の将来や進路に對

する悩みも率直に投げかけました。

当日は日本経済新聞社の協力の下、記者の方がモデレーターとして登壇し、講演と質疑応答の進行を担ってくださいました。鈴木氏との対話を通して、生徒たちにとって将来を考える大きなヒントとなる貴重な時間となりました。

また、代表質問を務めた生徒は「将来の不安をぶつけたら、『迷いながらも自分の思いを信じて進むことが大切』という言葉いただき、前向きな気持ちになれた」と振り返りました。今回の講演会は、日々の学びと実社会とのつながりを実感し、自分の将来を見つめ直す貴重な機会となりました。

近隣地域の小学生が最新技術を体験！
—生徒主導の3Dプリンター講座が大好評—2/22
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

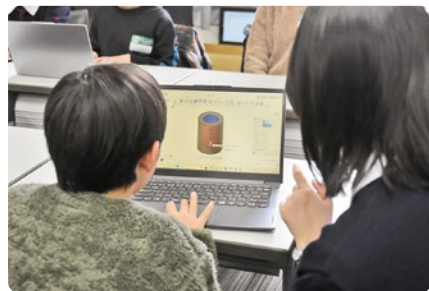
八尋博士教諭の指導の下、モノづくりプロジェクトに参加する本校の生徒が中心となり、近隣の小学生10名を対象とした「3Dプリンター講座」を開催しました。定員を大きく上回る参加希望があり、実施前から地域の高い関心がかがえるイベントとなりました。

本校では、文部科学省の「DXハイスクール」指定を受け、最新の3Dプリンター10台を導入しています。今回の講座では、その先進設備を活用し、改装されたばかりのディスカッションルームにて実施されました。内容は、3Dモデリングの基本から始まり、湯のみのデザイン体験、さらに名前入りのオルゴール作成

まで、多彩なプログラムで構成されました。当日は、生徒たちが小学生に向けてソフトの使い方や制作の流れをわかりやすく説明し、各工程を丁寧にサポートしました。

小学生や保護者の皆さんからは、「3Dプリンターを操作することができて貴重な機会になった」「自分の名前が入ったオルゴールができて嬉しい」といった声が寄せられ、満足度の高さがうかがえました。

講座の準備段階では、生徒たちが自ら教材を作成し、ソフトや機器の操作を習得するなど、綿密な準備を重ねました。その結果、参加者への丁寧な説明やサポートが実現し、生徒自身にとっても大きな自信と達成感を得られる貴重な機会となりました。

伝統と自然に触れる学びの場
「田んぼプロジェクト」始動6/15
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

国営飛鳥歴史公園(奈良県明日香村)内、キトラ古墳周辺地区の「キトラの田んぼ」にて、本年度も「田んぼプロジェクト」が始動しました。本プロジェクトは、地元農家との協働の下、生徒たちが稲作体験を通じて農業や地域の伝統文化について学ぶことを目的としており、今年で6年目の実施を迎えました。

植えた苗は、古代米の一種である「神丹穂」。一般的な白米と異なり、赤い実をつけるのが特徴です。当日は、中学1年生から高校2年生までの生徒28名が参加し、数穂教諭と柴田大介教諭の

引率の下、協力農家の樽井一樹さん、瀬川健さんから田植えの手順について丁寧な指導を受けました。ガイドロープを使って約30cm間隔で苗を植えていく作業は、足元が泥に沈む感触や田園風景の美しさも相まって、プロジェクトに初めて参加する生徒も多く、新鮮な体験となりました。

秋の収穫に向け、これから生徒たちは農業の現場と向き合いながら、自然や地域と関わる学びを深めていきます。





歓喜の歌で未来をつなぐ コーラス部が大阪・関西万博開幕セレモニーに出演

大阪・関西万博の開幕を飾る公式イベント「1万人の第九 EXPO 2025」が、夢洲の万博会場で開催され、小学校コーラス部の児童が合唱団の一員として出演しました。この壮大なセレモニーでは、総監督・佐渡裕氏の指揮の下、6歳から93歳までの合唱団員約1万人が、ベートーヴェン「第九」第4楽章「歓喜の歌」を大合唱。前日まで降っていた雨が演奏直前に止み、朝の光が差し込む中で届けられた歌声は、「奇跡」と称され、観客や出演者の心に深く刻まれる



ものとなりました。

児童たちは、会場の熱気と壮大な音楽に包まれながら、これまでの練習の成果を発揮し、堂々とした歌声を響かせました。万博特別記念のポンチョをまとい、国内外からの参加者とともに「世界の平和」や「未来への希望」を歌に込める姿は、多くの人々に感動を与えました。

開幕を祝う歓声が響き渡る中、達成感と感動でいっぱいの表情を見せていました。



小さなどんぐりに大きな願いをこめて 苗木のスクールステイ始まる

奈良県森林組合連合会が推進する「苗木のスクールステイ」企画の一環として、1・2年生各クラス代表児童によるどんぐりの植え付けを行いました。これは、2027年春に奈良市の平城宮跡をメイン会場に開催される「第77回全国植樹祭」に向けた取り組みで、未来の森づくりに

参加するという貴重な機会となりました。

当日は、奈良県の職員の方からどんぐりの種類や、森が育つまでにかかる年月、そして今回の取り組みの意義について説明を受けた後、児童たちは一人ひとつ、どんぐりを手に取り、プランターに丁寧に植えていきました。手のひらに収まる小さなどんぐりにそっと土をかぶせる表情は、真剣そのもの。



「大きくなあれ」「がんばって育てね」と声をかけながら植える姿が印象的でした。

参加した児童からは、「どんぐりから木が育つのが楽しみ」「水やりをがんばりたい」「大きくなったら、森に植えたい」といった声が聞かれ、自分の手で育てるどんぐりが未来の森になるという体験が、自然への関心や責任感を育む大切なきっかけとなったことがうかがえました。

今後、児童たちは日々の水やりや観察を通して苗木の成長を見守っていきます。そして、育てた苗木はやがて全国植樹祭の会場に届けられ、全国から集まる参加者の手で森づくりに活用される予定です。



ひらめきと感性が光る 美術作品展「掌の美」を開催

学園講堂にて、小学校美術作品展「掌の美」が開催されました。会場には、1年生から6年生までの児童が制作した多彩な作品が展示され、来場した保護者や児童たちの目を楽しませていました。

作品展では、学年ごとの発達段階に応じたテーマや技法を取り入れながら、絵画、陶芸、墨アートなど、創意工夫の光る作品が並びました。自然や日常の風景、空想の世界など、児童たちがのびのびと表現した

作品からは、それぞれの感性や創造力が感じられます。

自分の作品を熱心に見つめたり、友人や家族と作品について語り合ったりする様子も見られ、児童たちにとっても特別な時間となったようです。

美術を通じて育まれる創造力や自己表現力の豊かさは、これからの成長においても大切な土台となることでしょう。



ポップコーンから広がる学びの輪



探究×キャリア×大学連携で深まる 帝塚山ポップコーンプロジェクト

5年生による「帝塚山ポップコーンプロジェクト」が始動しました。このプロジェクトは、理科の学習を起点に、トウモロコシの栽培から商品化、販売までを児童自身が体験する教科横断型の探究活動です。このプロジェクトは、これからの社会を担う力を育むことを目的としたキャリア教育でもあります。

5月13日には、大学現代生活学部居住空間デザイン学科の大里浩二学科長による特別授業が行われました。授業では、製品づくりに欠かせないパッケージデザインの基礎を学習。ロゴの役割や色の選び方、文字の見せ方など、実際のパッケージ事例を用いて、「伝えるためのデザイン」の考え方を深めました。児童たちは「見る人のことを考えるって大事」「デザインにも意味があるんだ」と、真剣なまなざしで話に聞き入り、新たな視点を獲得しました。

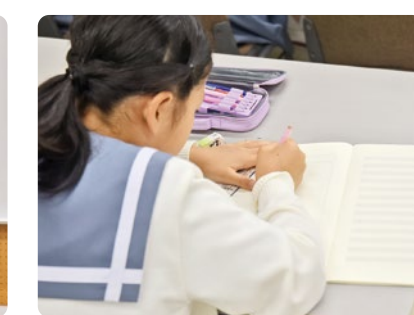
そして5月15日、いよいよトウモロコシの苗の植え付けを小学校農園で実施。児童たちは、ポップコーンづくりに適した「爆裂種」と呼ばれる穀粒が

小さく、粒の皮が非常に硬いのが特徴である品種の苗を1本ずつ丁寧に植えていきました。植え付けでは、土の感触やトウモロコシの成長を想像して目を輝かせ、「早く大きくなつてほしい」「おいしいポップコーンになりますように」と、心を込めて作業に取り組んでいました。

このプロジェクトの集大成は、秋に開催される育友会イベント「TEN:es」内の「5年生による八百屋」での販売です。児童たちは価格や陳列、接客の工夫まで自分たちで考え、「BLOCKS POPCORN」と連携し、商品として完成させたポップコーンを販売します。

さらに、紙製パッケージを扱う株式会社「ペーパー」と連携し、収穫後に出る廃棄物を活用したミックスペーパーを用いて、環境に配慮したオリジナルのパッケージさらに、学校オリジナルノート制作に活用します。SDGsの視点を取り入れたこの取り組みも、児童たちの学びをより広く深いものにしていきます。

秋の実りとともに、どのような商品が完成するか、5年生の挑戦にとっぞ注目ください。



親子で触れる日本文化

—生け花教室で感じる初夏の心



伝統文化を体験する機会として、「生け花親子教室」を開催しました。講師としてお招きしたのは、大和末生流第四代家元須山法香齋先生です。須山先生の祖父である故・須山敬次郎先生は、かつて帝塚山学園の高等学校で教鞭をとられ、幼稚園の第二代園長も務められました。幼稚園とゆかりのある先生をお招きし、伝統文化の尊さに触れる貴重な機会となりました。

教室では、季節にちなんだ花材を用いて、園児たちにも分かりやすく丁寧に生け花の魅力を教えてくださいました。

今回のテーマは、5月の端午の節句にちなんだ「菖蒲」です。古くから、菖蒲は端午の節句に欠かせない植物とされており、その凛とした姿には、力強さと気高

さが感じられます。園児たちは、目の前にある菖蒲の美しさに心を寄せながら、ひと枝ひと枝を真剣なまなざしで生けていきました。

教室では、親子が並んで一緒に花と向き合う光景があちこちに見られました。花留めの上に自然な姿を表現するためには、バランスや角度、花と葉の調和をよく考える必要がありますが、須山先生のご指導の下、園児たちは自らの感性を活かしながら、のびのびと作品を完成させていきました。

完成した作品には、一つとして同じものはなく、それぞれの園児が見つけた「菖蒲の美しさ」が、自由な形で表現されていました。親子で一つの作品をつくり上げる時間は、普段の生活では得がたい特別な経験となったようです。

春の自然に親しむ
いちご狩り体験

春風がやさしく吹き抜ける中、5月7日に年少組の園児たちが楽しみにしていたいちご狩りに出かけました。朝から「早く行きたいな」「いちごいっぱい取る!」と期待に胸をふくらませ、園バスに乗り込む姿が微笑ましく、行き先のビニールハウスが見えると、車内は歓声に包まれました。

到着後、農園の方からいちごの取り方を教わり、いよいよ収穫体験がスタート。初めての体験に少し戸惑う様子も見られましたが、慣れてくると「大きいのがあった!」「真っ赤なのがあった!」と声を弾ませながら、真っ赤に実ったいちごを夢中で探していました。



自分の手で摘み取ったいちごをその場で味わい、「あま〜い!」「もっと食べたい!」と笑顔いっぱい。手や口のまわりを赤く染めながら、季節の恵みを思いきり楽しんでいました。

今回のいちご狩りは、自然とのふれあいを通して、収穫の喜びを体いっぱいに感じながら、園児たちが驚きや発見を楽しむ貴重な体験となりました。園児たちのいきいきとした表情からも、この行事が心に残る一日となったようです。

※年中・年長組のいちご狩りは4月30日に行いました。

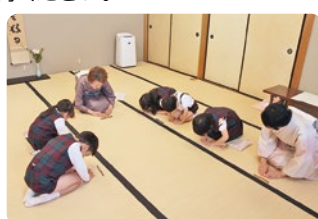
チャレンジプログラム〈茶道〉
〜「日々是好日」の心で、“今”を大切に〜

今年度のチャレンジプログラム〈茶道〉がスタートしました。ご指導くださるのは、裏千家流の尾崎宗栄先生です。初回は保護者の皆さまにもご参観いただき、緊張感のなかにもあたたかな雰囲気が始まりました。「お軸にある“日々是好日”の言葉のように、“今”というこの瞬間を大切に、一生懸命取り組みましょうね」と、尾崎先生から優しいお言葉をいただき、園児たちも真剣なまなざしで耳を傾けていました。

この日の茶菓子は「落とし文」。風情ある名前とともに、その意味にもふれながら、みんなで美味しくいただきました。



これからの1年間、チャレンジプログラムの茶道では、茶菓子の名前に込められた意味や、床の間に飾られるお花の名前を学びながら、四季折々の風情を感じる時間を楽しんでいきます。静かな所作の中にも、心が育まれる茶道のひとつときに、どうぞご期待ください。

お米プロジェクト
〜田植え体験で育む自然とのふれあい〜

年長児を対象とした「お米プロジェクト」が今年も始まりました。本活動は、園児たちが自然に親しみ、命の恵みに感謝する心を育てることを目的としています。自ら苗を育て、田植えや稲刈りを体験する中で、食の大切さや自然との関わりについて学びを深めます。

田植え当日は、京都府精華町にある田んぼを、前育友会会長・小林弘明さんのご協力の下お借りし、活動を行いました。田んぼに入る前には、クラスごとに田んぼリレーを行い、園児たちは泥の感触を全身で楽しみながら、笑顔いっぱいで走り回っていました。

その後、一人ずつ苗を手に



取り、2〜3本ずつ丁寧に植えていきました。「浮いてこないように押さえてね」と声をかけ合いながら、協力して作業に取り組む姿が見られました。

田植え後には、田んぼに棲むカエルや昆虫などの生き物を観察し、自然の多様さにも触れる貴重な機会となりました。

「早くお米を食べたいな」「元気に育ってね」と、秋の収穫を心待ちにする声も聞かれました。



6/11
大学
×
小学校

児童に交通安全と防犯を わかりやすく伝える —法学部生が交通安全・ 生活安全教室を実施—



小学校体育館にて、大学法学部アドバンスクラスの学生が交通安全・生活安全教室を実施しました。奈良県警察及び笹邊将甫 法学科長の指導の下、大学生たちが

考案したオリジナルプログラムを用いて実施しました。教室は、信号機の色や並び順を当てるクイズからスタート。児童たちは元気よく手を挙げて回答し、交通ルールへの関心を高めていました。その後は、体育館内に引かれた線を横断歩道に見立て、大学生と一緒に横断歩道の安全な渡り方を体験。手を挙げて左右と後ろを確認する動作を楽しみながら学んでいました。



また、子どもが連れ去りなどの被害に遭わないための「いかのおすし一人前」(いか=知らない人について「いか」=知らない人について「いか」=知らない人の車に「の」らない、お=「お」おきな声を出す、す=「す」ぐ逃げる、し=大人に「し」らせる、一人=「一人」で遊ばない、前=出かける「前」にお家の人に言う)という合言葉に基づき、ダンスを通じて楽しく防犯について学習しました。

大学生たちが児童と対話しながら進めた今回の教室は、交通安全や防犯意識を育む大切な機会となりました。



6/13
小学校
×
幼稚園

1年生と年長児が笑顔でふれあう 「幼小交流会」開催

小学校体育館にて小学校1年生と幼稚園年長児が、「幼小交流会」で楽しい時間を共有しました。グループに分かれて自己紹介をした後、「ジャンボじゃんけん」や「もうじゅうがり」といった遊びを通して交流を深めました。初めは少し恥ずかしそうにしていた子どもたちも、活動が進むにつれて自然と笑顔に。1年生が年長児の手を取りながら優しくリードし、園児たちも元気に応える姿が印象的でした。

最後には、1年生が心を込めて作った手作りのブックマークをプレゼント。受け取った園児は嬉しそうに手に取っていました。



2/20
大学
×
中高

自らの言葉で訴える 弁論大会開催

学園講堂にて高校1年生による弁論大会を開催しました。校内予選を勝ち抜いて選ばれた6名の生徒が登壇。それぞれが夏季休暇中にまとめた弁論文を基に、社会課題や自分の興味関心を持つものをテーマに、自らの言葉で力強く訴えました。

発表内容は、日本語の魅力や新しい休日診療の形など多岐にわたり、原稿を暗記し、身振り手振りを交えながら堂々と語る姿が印象的でした。観衆を引き込むプレゼン力も求められる中、内容の深さと表現の工夫が光る発表が続きました。

今年度も校外から審査員をお招きし、帝塚山大学奥村由美子学長、株式会社アイエスエイ 木本健太郎 主幹、名鉄観光サービス株式会社 西頭怜香 主任の3名に審査をご担当いただきました。

発表後には、論の展開や資料の見やすさ、プレゼン力などを基準に審査が行われました。いずれの発表も着眼点の鋭さとプレゼン力、個性が光る内容、選考は難航を極めました。審査員からは「どの発表も論理的で説得力があり、聴衆を引き込む力があつた」との講評が寄せられ、生徒たちの表現力の高さに高い評価が集まりました。

審査終了後には、本校卒業生・周平魂さんがコンビを組むお笑い芸人「ソートライブ」が漫才を披露し、会場は笑いに包まれました。真剣な発表の後の和やかなひとときとなり、大会の締めくくりにふさわしい時間となりました。



岐にわたり、原稿を暗記し、身振り手振りを交えながら堂々と語る姿が印象的でした。観衆を引き込むプレゼン力も求められる中、内容の深さと表現の工夫が光る発表が続きました。



3/3
大学
×
幼稚園

作って食べよう！ ぱくぱくパンを焼こう

大学現代生活学部食物栄養学科の佐伯・新宅ゼミの学生たちが参加し、体験型食育の「作って食べよう！ぱくぱくパンを焼こう」を実施しました。これは、園児が自分たちで給食のパンを作ることで、食への興味や関心を深める体験型の取り組みです。

学生たちは、パン作りの手順や成形時のポイントを、絵や図を使ってわかりやすく紙芝居形式で説明し、園児の目線に立ち、ゆっくり丁寧に話すことや、明るく元気な声がけなど、園児との円滑なコミュニケーションを心がけ、事前の準備にも力を入れて臨みました。

パンがかわいらしいうさぎやくまの形に焼き上がると、園児たちは大歓声。自分の手で作った焼きたてのパンは格別だったようで、給食とともに笑顔でおいしそうに食べていました。

学生たちにとっても、園児たちとのふれあいを通じて実践的な学びを得る貴重な機会となりました。



6/7
中高
×
小学校

中高一貫教育への架け橋—— 5年生が中高で 体験授業を受講

小学校5年生の希望者を対象に、帝塚山中学校・高等学校での体験授業を実施しました。

男子児童は理科と情報科、女子児童は理科と音楽科の授業にそれぞれ参加。理科では、液体・気体・固体に関する実験を通して、身のまわりの現象に



対する理解を深めました。情報科では「モデル化とシミュレーション」の考え方を体感し、音楽科ではバイオリンの演奏に挑戦するなど、普段の小学校の授業とは一味違う学びに触れました。

中学校での本格的な学習環境にふれたことで、児童たちの中学校生活への興味や期待も一層高まったようです。授業を終えて小学校に戻ってきた児童たちが、笑顔で楽しそうに体験を語る姿が印象的でした。



つながる ひろがる 教育連携

Educational Collaboration
in Tezukayama Gakuen



3/17
大学
×
中高

実践的な学びを体験 AI・データサイエンス 講座を実施



中高生の希望者を対象とした「AI・データサイエンス講座」を実施しました。講師を務めたのは、大学経済経営学部の日置慎治学長補佐(データサイエンス担当)。大学

でも注目を集める分野であるデータサイエンスを、実習形式でわかりやすく学ぶ機会となりました。

講座では、Google Colabを用いたPythonの基礎実習を実施。仮想の平均給与や家賃に関するデータを題材に、実際のデータを用いた分析体験を行いました。また、AIがどのような仕組みで動いているのかについての解説や多様な分野での活用事例も紹介され、参加者の理解を深めました。さらに、コンピュータ言語が約1,000語存在することなど、プログラミングやコンピュータ言語の世界の広がりについても紹介され、参加者の関心を深めました。

参加した中高生からは、「AIやプログラミングは自分には遠い世界だと思っていましたが、実際にやってみると興味がわいてきました。大学の先生と学べるのも貴重な体験で楽しかったです。」との感想が聞かれ、実践的な学びの楽しさを実感する様子うかがえました。

今回の講座は、データサイエンスという最先端の分野に触れる貴重な機会となり、生徒たちにとって新たな学びへの興味や探究心を育む時間となりました。



令和7年6月9日 帝塚山学園同窓会 関東支部 総会・懇親会を開催

東京ドームホテルにて帝塚山学園同窓会関東支部総会及び懇親会を開催しました。

冒頭、関東支部長の司会により総会を開会し、玉井政弘(36期)同窓会会長が挨拶を行いました。続いて、会計報告などを行い、出席者の承認を得ました。

引き続き開催した懇親会には62名が出席。

2004年に発足した関東支部は、今回で21年を迎え、22年目に入りました。節目の記念となる今回の会では、これまで支部の発展を支えてくださった方々をお迎えし、有山雄基(7期)第8代会長、綿谷基(23期)第12代会長、辰巳友昭(22期)元副会長より、同窓会の歩みや設立当初の思い出についてスピーチをいただきました。



また、恩師として数学の川野直男教諭、国語の山内裕教諭にもご出席いただき、温かいお言葉を頂戴しました。さらに、富山博正(21期)関東支部元会長、須賀田康晴(22期)様からもご挨拶をいただきました。

恒例の初参加者紹介では、12期、23期、29期、46期、57期、75期から計9名が登壇し、それぞれの自己紹介やスピーチで会場を盛り上げていただきました。

本部役員・関東支部役員の紹介の後、校歌及び茜雲を合唱し、同窓生同士の絆を再確認するひとときとなりました。

今回は、最年少は23歳から最年長は92歳までと幅広い年代の皆さまにご参加いただきました。

令和7年4月12日 山岳部OB・OG会「大空紀之先生を偲ぶ会」を開催

4月12日、山岳部OB・OG会「岳酒会」による「大空紀之先生を偲ぶ会」を開催し、13名が参加しました。

「岳酒会」という名称は、約50年前に当時顧問を務められていた大空先生が命名されたもので、今回の会はその先生を偲ぶ特別な集まりとなりました。



令和7年5月25日 16期生 同期会を開催

5月25日、16期生による同期会を開催し、23名が参加しました。

久しぶりに再会した同級生たちは、木造校舎や円形校舎での授業、修学旅行、体育大会など、在学当時の

懐かしい思い出話に花を咲かせました。

語り合ううちに、自然と高校時代の面影がよみがえり、当時の笑顔や空気が会場を包む温かな時間となりました。



食べ物の大切さを学ぶ 大学生と園児が一緒に 野菜を植えました



大学現代生活学部食物栄養学科の新宅ゼミの学生が、幼稚園の園児たちと一緒に野菜の苗の植え付けを行いました。この取り組みは、OATアグリオ株式会社の協力の下、実施され、毎年恒例の「食育」の一環として、園児たちに食べ物への関心を高めてもらうことを目的としています。

当日は、まず各教室でOATアグリオ株式会社の講師から、野菜の育て方や肥料の役割についてわかりやすい説明がありました。園児たちは熱心に話を聞きながら、野菜に対する興味を深めていました。

その後、園庭で学生と園児が一緒に苗を植え付け。年少組はプチトマト、年中組はパプリカ、年長組はなす、スイカ、きゅうりの苗を担当。学生と力を合わせて土を整え、苗を植え、じょうろで水をたっぷり注いで作業を終えました。

7月2日には、今回植えた野菜を給食の献立に取り入れ、食育活動を実施しました。園児たちは「早く大きくなれないかな」と、収穫の日を待ちきれない様子でした。

学生たちは、「実際に土に触れたり、水やりをしたりすることで、食べ物がどうやって育つのかを実感してもらえたのではないかと思います。私たち自身も、園児たちと一緒に学びながら、食育の大切さを改めて感じることができました」と感想を語っていました。



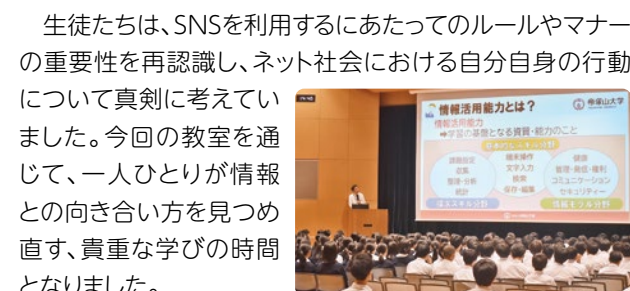
情報モラル講演会を開催 —中学生が インターネット社会の リスクと向き合う—

SNSやインターネットが生活に欠かせない存在となった今、情報機器を正しく、安全に利用するための知識と意識が求められています。今年度は、中学生を対象に情報モラル講演会を学園講堂にて開催し、現代の情報社会におけるネット社会のリスクについて学びました。

「ネット社会のリスクを知ろう!—中学生にとって必要な情報モラルとは?—」をテーマに大学法学部の笹邊将甫法学科長にご講演いただきました。SNSの利用で起こったトラブルやネットと犯罪など、実際の事例を交えてわかりやすく講演いただきました。



生徒たちは、SNSを利用するにあたってのルールやマナーの重要性を再認識し、ネット社会における自分自身の行動について真剣に考えていました。今回の教室を通じて、一人ひとりが情報との向き合い方を見つめ直す、貴重な学びの時間となりました。



集中力を高め、学力向上へ 「勉強合宿」を実施

高校2年生を対象とした勉強合宿が、大学東生駒キャンパス内にあるセミナーハウス三碓で今年度も実施されました。参加者は事前に作成した「学習計画表」に基づき、自律的に学習に取り組みました。静かで集中しやすい環境の中、夜遅くまで机に向かう姿が見られ、仮眠室も活用しながら、計画的に学習時間を確保していました。

この合宿を支えるのは、数穂教諭・曾根幹央教諭に加え、本校の卒業生たちです。生徒たちの質問にはすぐに応じ、つまづきの解消や理解の深化を丁寧にサポート。仲間と共に学ぶ姿勢や、わからないことをその場で解決できる体制が、学習への意欲をさらに高めていました。

参加者からは「集中しやすい雰囲気や、普段よりも多くの学習が進んだ」といった声も寄せられ、学習習慣の見直しや受験に向けた意識改革の機会として、充実した時間となりました。



小学校コーラス部・幼稚園年長組が オリックス・バファローズ戦で国歌斉唱を担当

4月18日、京セラドーム大阪で開催されたプロ野球・オリックス・バファローズの公式戦にて、小学校コーラス部の児童と幼稚園年長組の園児たちが、試合前セレモニーの国歌斉唱を務めました。

プロ野球の試合前に行われる国歌斉唱は、球場全体が静まり返る中で厳粛に行われる重要なセレモニーです。そのような場において、本学園の児童・園児たちは、堂々とした姿勢と美しい歌声で「君が代」を披露し、観客から温かな拍手が送られました。

初めて立つ広大なドーム球場の舞台、多くの観客に囲まれた中で、子どもたちは緊張を感じながらも、練習の成果を存分に発揮しました。この貴重な経験は、子どもたちにとって大きな自信となり、心に残るかけがえのない思い出となったことでしょう。



奈良と帝塚山学園の歩みをたどる —特別展示「戦後80年」が図書館でスタート—

大学東生駒キャンパス図書館にて、特別展示「奈良と帝塚山学園の『戦後80年』」を開催しています。本展示は、帝塚山大学奈良学総合文化研究所、帝塚山大学及び帝塚山学園の共催により実施しており、文学部・法学部の学生や大学院生が企画・準備に関わったものです。

展示は4つのテーマで構成され、天理市で生涯を過ごした永井清繁氏が残した戦時下の奈良の風景を描いたスケッチを通して振り返るほか、学園の昭和史として、かつての帝塚山学院生徒による集団疎開の様子など、戦中・戦後初期の学園の姿を写真で紹介。また、大学法学部末吉ゼミによる奈良県内の戦争遺跡の調査成果、さらに文学部の司書課程履修生による戦争関連図書の紹介も行われており、多角的に「戦後80年」を捉える内容となっています。

展示準備には、教職課程や学芸員・司書課程の履修生も携わり、教育的な観点からも意義深い取り組みとなっています。展示は12月1日まで開催され、期間中には文学部鷲森浩幸教授による基調講演や帝塚山大学奈良学総合文化研究所主催の講演会(全5回)も予定しています。

地域の歴史と学園の歩みを見つめ直すこの機会に、ぜひ足をお運びください。

▶詳細はこちら：<https://www.tezukayama-u.ac.jp/GEIBUN/news/2025/80/>



小学校のホームページをリニューアルしました！

小学校のホームページをこのたびリニューアルしました。新しいホームページは、より見やすく、わかりやすいデザインに刷新され、スマートフォンやタブレットからの閲覧にも対応しています。トップページでは最新情報や入試イベントを確認することができるようになり、保護者や本校に入学を検討されている方に向けた情報発信をタイムリーかつ知りたい情報にすぐにアクセスできる構成となっています。また、「教育内容」や「学校生活」のページも充実し、小学校の特色や日々の活動の様子が伝わる内容となっています。

今後も本校では、ホームページを通じて学校の魅力や児童たちの日々の活動の様子を発信してまいります。

新しくなったホームページをぜひご覧ください。

▶小学校ホームページ：<https://www.tezukayama-e.ed.jp/>



小学校と幼稚園の新CMが完成！ テレビ・YouTube帝塚山学園 公式チャンネルで放送中

小学校・幼稚園の新しいテレビCMが完成し、7月より放送がスタートしました。未来を担う子どもたちの笑顔や学びの様子を、ぎゅっと15秒間に詰め込み、学校生活の魅力を伝える内容となっています。撮影には実際の園児・児童が登場し、自然な表情や生き生きとした姿が印象的な映像となりました。

このCMは、奈良テレビ放送の情報番組『ゆうドキッ!』の放送時間内に、毎週水曜日18時00分～18時25分、金曜日17時30分～18時25分の間に放映されています。

また、CM動画は帝塚山学園 公式YouTubeチャンネルにも掲載しており、ご家庭のスマートフォンやパソコンからも手軽にご視聴いただけます。

テレビとインターネットを通じて、本学園の教育の姿勢や日々の取り組みを、より多くの方々にお届けしてまいります。

ぜひ、テレビやYouTubeで新CMをご覧ください。

・帝塚山学園公式 YouTube



<https://www.youtube.com/@TezukayamaGakuen>



小学校CM動画

https://youtu.be/kFwFoY_0LU0



幼稚園CM動画

<https://youtu.be/L2B6pNaizAM>



中高弦楽部及び吹奏楽部へのご支援、ありがとうございました

このたびは中高弦楽部・吹奏楽部への温かいご支援を多数いただきましたこと、心より御礼申し上げます。皆さまからお寄せいただいたご厚意は、次のとおりです。

弦 楽 部 合計件数:31件 合計金額:975,000円
吹奏楽部 合計件数:12件 合計金額:565,000円
〈受付期間:令和7年4月1日～5月31日〉



今回お寄せいただいたご寄付は、遠征や演奏会の運営費、楽器の更新、楽譜の購入など、両部の音楽活動を支える様々な場面で大切に活用させていただきます。

生徒たちがより幅広い演奏に挑戦し、音楽を通じて豊かな学びや経験を得られるよう、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「*T-time*」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。



学校法人帝塚山学園
Tezukayama Gakuen

学園の「今」をもっと身近に 各学校園のInstagramをチェック！

帝塚山学園では、幼稚園から大学まで、それぞれの学校園がInstagramで日々の様子やイベント情報を発信しています。子どもたち・学生たちのいきいきとした表情や、学校生活の一コマをぜひご覧ください。

下の二次元コードから、アカウントをのぞいてみてください。
「フォロー」と「いいね!」で、応援をよろしくお願いします！



帝塚山大学



帝塚山中学校・
高等学校



帝塚山小学校



帝塚山幼稚園